

# 日本温泉協会のかじ取り

## 会員総会記念特別インタビュー

### 震災の影響を調査 地熱開発の動きを懸念 排水問題は議論重ね

東日本大震災と福島第1原発事故は温泉・観光地に大きな影響を与えた。特に、原発事故は日本温泉協会が懸念する地熱発電への注目が集まる恐れもある。会員減少、財政基盤確立など、協会が抱える問題をどうクリアしていくのか、6月23日、山梨県甲府市の湯村温泉・常磐ホテルで開かれる会員総会を前に滝多賀男会長にインタビューした。(聞き手・内井高弘) 下呂温泉の水明館で



会長 滝多賀男氏

### 一般社団法人へ移行 Tポイントの活用視野 新執行部を全面支援

東日本大震災の影響は温泉・観光地に及ぼすばかりでなく、下呂温泉にも及ぼした。温泉の水位が上昇したという報告を受けている。地震による影響は動力泉に比べ、自噴泉の方が現象として表れやすい。圧力の関係による影響だと数日して元に戻るケースが多いが、源泉内部の破壊だと回復はなかなか難しいという。いずれにしても、学術部の先生方の協力を仰いで、会員を対象に調査を行うこととしている。

護の立場から、既存の温泉地周辺で無秩序な地熱開発はこれまでも反対してきた。昨年5月、内閣府の行政刷新会議・規制制度改革に関する分科会「グリーンインベション・ワーキンググループ」は再生可能エネルギーの導入促進に向けた見直し案をまとめた。その中に自然公園や温泉地などにおける地熱開発を盛り込みました。協会内閣府に「既存温泉地や影響が予測される地域での地熱発電開発は、救済方法が明確化されない限り断固反対である」との意見書を提出した。しかしワーキンググループの先生方の意見を聞き、方向を打ち出した。

酸化炭素の排出量が少ないなどの点から注目されている。エネルギー源である蒸気および熱水は温泉法に定義された温泉であり、膨大な量が採取されることから、周辺の既存温泉への影響や環境破壊などが憂慮される。過去にも地熱発電所の周辺地域で温泉の枯渇現象や地

震、地滑り、山崩れなどの事例が報告されており、短期的な観測では影響がなくても、長期的には影響があると思われるべきだ。協会では温泉資源保

リニューアルした会報

### 80年記念誌を刊行 温泉の貴重な資料

日本温泉協会は2009年に創立80周年を迎えた。これを記念して80年記念誌を制作し、今年1月下旬に刊行した。「日本の温泉とともに80年」の副題を付け、協会80年の歩



み振り返るとともに、現在の温泉の現状と課題について触れている。温泉の歴史をたどる貴重な1冊といえそうだ。協会副会長で学術部委員長の内田邦彦氏や国際観光旅館連盟の佐藤義正会長、日本温泉気候物理医学学会の猪熊茂子理事長らがそれぞれの立場から特別寄稿している。また、全国40温泉地を取り上げ、歴史や現状、活性化について記している。日本温泉協会の10年度度普及宣伝事業の助成を受けて作った。A4判128ページ、5千部を作り、国の機関や地方公共団体、図書館などに配布している。

約の比較の緩やかな一般社団法人の道を歩むべき」との結論に至った。会長は勇退を表明していますが、印象に残る出来事は向こう。 「もう少し早く退く予定だったが、結局4期8年に及んだ。いろいろの思い出があるが、創立80周年、そして記念事業として09年11月に横浜で開催した『国際温泉会議』に、第2期国際温泉気候物理学会大会の成功が印象深い。日本政府観光局(JNTO)が主催する国際会議誘致・開催貢献をいただいた。 「やり残したことは多々ある。その一つが団体に関する。地方の温泉協会の組織化・ネットワーク化。会長職を離れるとはいえ、事あらば、微力ながら協会のお役に立ちたい。新執行部を全面的に支援する考えだ」



天然温泉表示看板 ネット事業の強化も課題です。 「現在、『温泉名人』を立ち上げていくが、有効活用しているとは言い難い。やはり利益を生み出す仕組みを作る必要がある。例えば、宿泊予約機能や付いた、その手数料をいたぐといった具合だ。ネットエージェントとの連携なども考えられる。今年度事業計画では、ポイント制宿泊予約サイトとの連携事業の検討を盛り込んでいます。 「Tポイントの活用を視野に入れている。国連連が取り

# iPadで読む。

iPhone4 アンドロイドにも対応!

- 1 毎週号の全記事が読める(PC版、スマートフォン版)
- 2 バックナンバーも読める(PC版、スマートフォン版)\*
- 3 キーワードで記事検索ができる(PC版、スマートフォン版)
- 4 データベース機能で過去記事を検索(PC版)\*
- 5 紙面をプリントアウトできる(PC版)
- 6 記事をスクラップ(PC版で予定)

2010年5月15日から好評配信中

観光経済新聞 電子版	定期購読料
PC版(スマートフォンまたはiPad 1台分の無料ID、PW付き)	年額 ¥ 7,350(税込み)
スマートフォン版(iPhone・iPad・アンドロイド対応)	月額 ¥ 525(税込み)
(参考)週刊 観光経済新聞	年額 ¥11,000(税・送料込み)

無料試し読みとお申し込みはこちら

http://www.kankokeizai.com